

抹

マツ

8画
ナ
ナ
ナ
ナ
ナ
ナ
ナ
ナ

右へはらう

【なりたち】 粉末の意味の末とオ(てへん)との会意形声字。手ですり潰(こ)して細かくすることを表した字。すり潰すこと。細かい粉末にすることを。こすって消す・塗って消すこと。



抹

いみじく(1)

▼こすって消す。塗って消す。抹消：塗り消すこと。【用例】三字抹消する。

抹殺：①こすって消すこと。②完全に存在を否定すること。【用例】相手の意見を抹殺する。

▼すり潰(こ)して粉にする。

抹茶：ひいて粉にした茶。

抹香：シキミの葉や皮をひいて作った香。【用例】抹香臭い。(仏教的な感じがする。)

▼こする。塗る。

塗抹：①塗りつけること。②塗りつぶすこと。

一抔：①ひとすりにすること。②ほんの少し。【用例】一抹の不安が残る。



朱

シユ

とめる

6画
ノ
一
ニ
牛
牛
朱

【なりたち】 木という字の幹の部分に印を付けて、「幹」という意味を表した指事字。転じて、木を切ったときに残る幹の下の部分(下部)の称。切り株の心が赤い色をしているところから「赤い色」の名になった。

いみじく(1)

▼赤色の一種。黄色が混じった赤。

朱肉：赤い印肉。

朱墨：赤い墨。

▼朱肉・朱墨の略。

朱印：①朱肉を使って押した印。②「朱印状」の略。戦国時代以後、將軍や大名が朱印を押した公文書。【用例】朱印船(朱印状を持って海外貿易を行った船)。

▼江戸時代の貨幣単位。一両の十六分の一。【例】朱銀

よみかた 朱塗り・朱筆

よみかた 朱塗り・朱筆



束

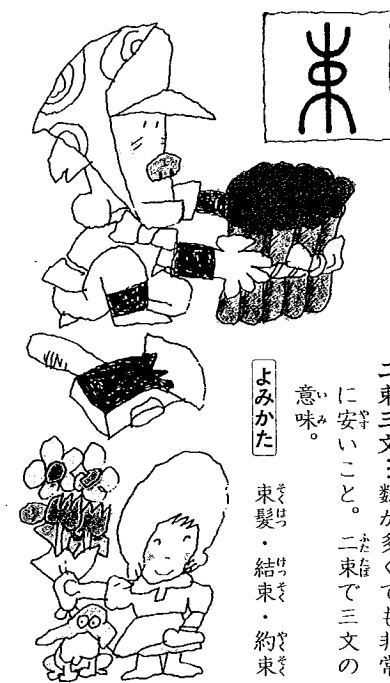
ソク

たば

7画
一
一
一
一
一
一
一

とめる

【なりたち】 薪(たき木)の木に縄をかけて束ねた形を表した象形字。「木」の束の意味を表した。今は、木に限らず、種類の物の「束」のこと。また、「束ねる」の意味に用いる。



束

いみじく(1)

▼束。束ねる。まとめて縛る。束束：特別に身仕度をすること。また、その着物。【例】白装束

花束：花を束ねたもの。

札束：紙幣を束ねたもの。

▼動けないように縛る。

束縛：制限を加えて自由に行動させないこと。

拘束：自由に行動させないこと。【用例】身柄を拘束する。

▼ひとまとめにしたものの。

二束三文：数が多くても非常に安いこと。二束で三文の意味。

よみかた 束髪・結束・約束

株

かぶ

とめる

10画
ナ
ナ
ナ
ナ
ナ
ナ
ナ
ナ
ナ
ナ

【なりたち】 本字は朱。朱が色の名称になったため、朱にオ(きへん)を加えて作られた会意形声字。木の幹の「下部」の根に接するところの称。木はここから切るので「切り株」という。わが国では、「名跡(代々つがれる家名)」また、「権利」の意味に用いられ、「株式」の語がある。

いみじく(1)

▼切り株。木の幹の一番下の部分。

▼立ち木の数を数える言葉。【用例】一株の桜の木。

▼江戸時代、売買することのできた名跡・家格・営業上の特権など。

御家人株：旗本の家格。

▼その人が持つ地位や身分、得意なことなど。【用例】お株を奪う。

▼「株式」「株券」の略。

株式：①株式会社の資本の構成単位。②株券。

株券：出資した金額を示す、有価証券。

よみかた 株主・株分け・頭

よみかた 株主・株分け・頭

